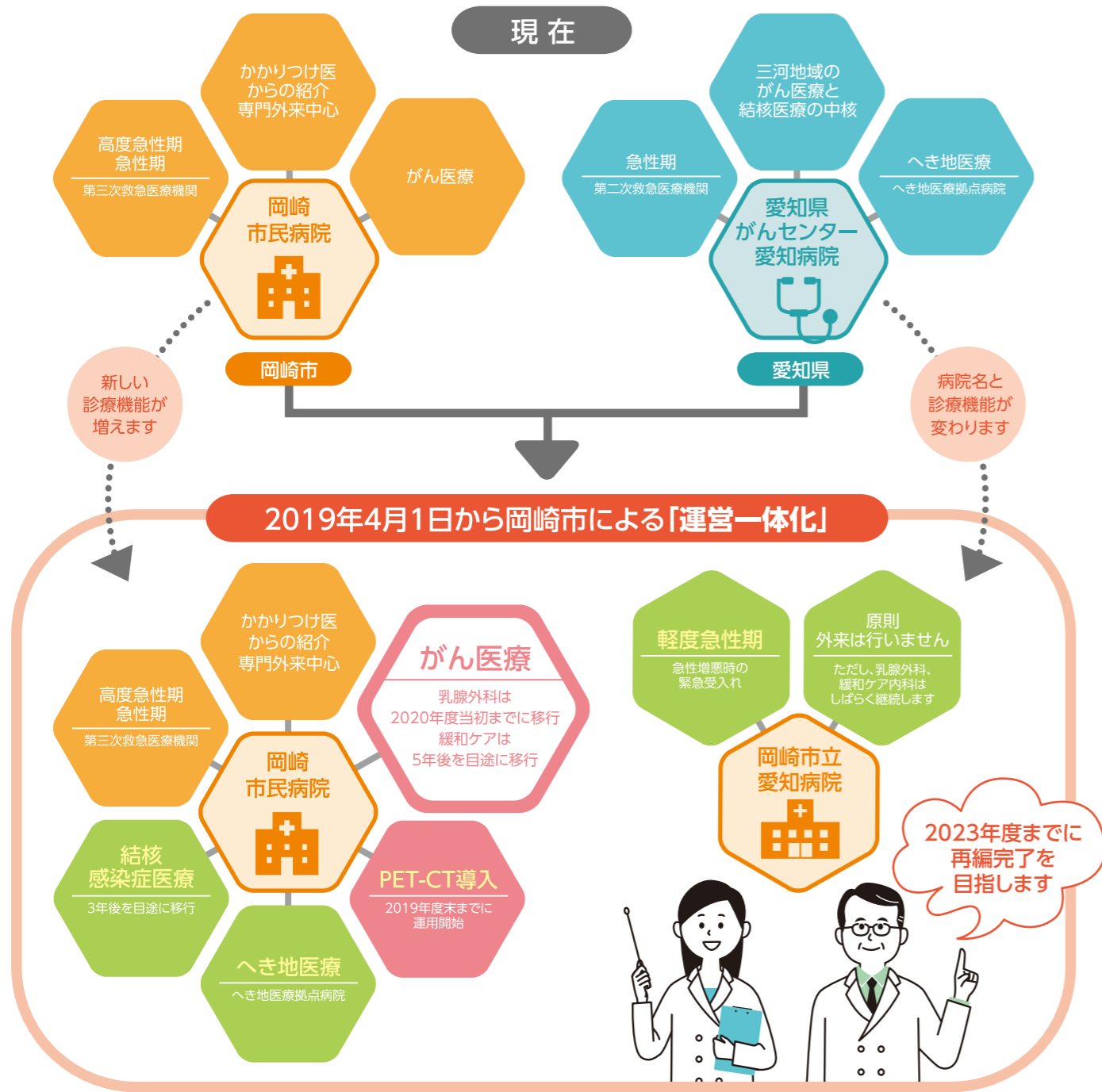


岡崎市の病院事業が生まれ変わります

2019年4月1日に、愛知県がんセンター愛知病院の経営移管を受け、順次、診療機能の再編と病床の機能分化を行っていきます。
2病院の効率的な運営により、岡崎市の病院事業は、地域医療の中心として、良質ながん医療・高度急性期医療を主軸に、医療全般の継続的な提供により地域に貢献します。

今後の2病院の役割



この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて地域医療連携室にお寄せください

岡崎市民病院地域医療連携室 TEL 0564-66-7262 FAX 0564-25-6720

●平日/8:30~17:00 ●土曜日/9:00~13:00 ※但し、祝日・12/29~1/3はお休みさせていただいております。※業務時間外は留守番電話になります。

岡崎市民病院広報誌



[テーマ] 抗菌薬適正使用

どうして抗菌薬適正使用?

これまで、切り札的な抗菌薬とされてきたバンコマイシンやカルバペネム系抗菌薬が効かない耐性菌が世界で増加しています。耐性菌増加の原因の一つが、抗菌薬の乱用だと言われているため、今、世界中で抗菌薬適正使用が注目されています。2016年の伊勢志摩サミットでも話題に取り上げられ、厚生労働省から薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが出されました。2018年の診療報酬改定でも、取り組みを評価されるようになりました。

感染対策室長 辻 健史

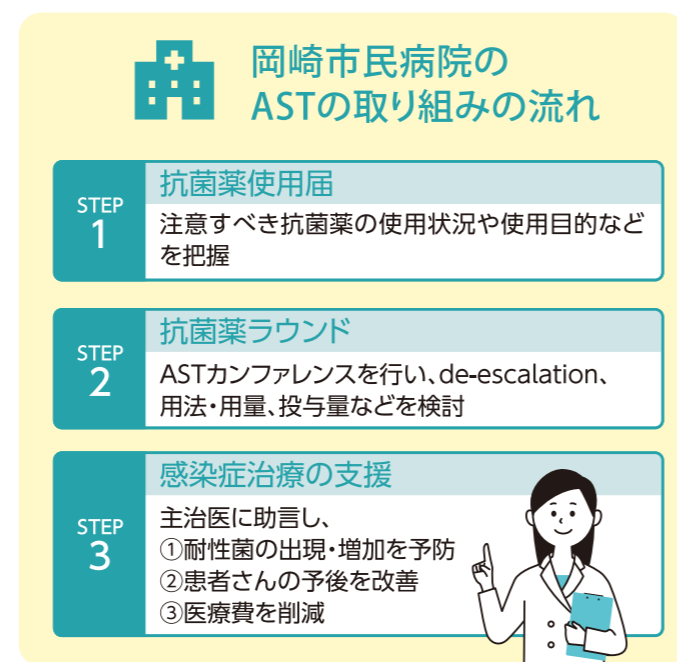
抗菌薬適正使用 ～岡崎市民病院の取り組み～

2018年に、抗菌薬適正使用支援チーム（AST: Antimicrobial Stewardship Program Team）を立ち上げました。ASTのメンバーは、医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師からなります。広域抗菌薬・抗MRSA薬使用患者の把握、菌血症患者の把握、抗菌薬の選択・用量・用法の支援、抗菌薬TDM(Therapeutic drug monitoring)の実施、起炎菌判明後の抗菌薬選択の支援、抗菌薬使用前の培養検査提出・血液培養2セット提出の教育・啓蒙、血液培養汚染率の改善、アンチバイオグラム(ある病原菌に対して各種抗菌薬がどれくらい効くのかを表にしたもの)の作成、耐性菌発生率のデータ収集、抗菌薬使用量のモニタリング、職員研修、抗菌薬使用マニュアルの作成、採用抗菌薬の検討などを行っています。このような事が、どのように実践されているか、具体的に2つの例を挙げて説明いたします。

①入院患者さんに適正使用

広域抗菌薬(カルバペネム系抗菌薬、タゾバクタム/ピペラシリン)と抗MRSA薬について、届出制を実施しています。届出制を行っている目的は、これらの抗菌薬の不要な症例に対する使用や、不適切な使用(投与量、投与期間)を避けるためです。届出を行っていただく事で、医師の使用目的などをICTが把握し、不適切な使用があれば、助言を行っています。適正使用のもう一つの柱として、de-escalation(広域から狭域へ)を推奨しています。治療開始時には、起炎菌が不明のため、広域抗菌薬や抗MRSA薬を使用することが多くなりますが、数日後には、治療開始時に提出した培養検査の結果が判明し、起炎菌が明らかとなる症例があります。そのような症例には起炎菌に焦点を絞ったより狭域な抗菌薬の使用をお願いして

います。「せっかく今の抗菌薬で治療が上手くいっているのに、何で抗菌薬を変更しないといけないのだ!」というご意見の先生もいらっしゃいます。広域抗菌薬や抗MRSA薬の不適切な使用は、それらに対する耐性菌の出現、増加につながるため、de-escalationを、粘り強くお願いしています。また、起炎菌が不明な場合などでこれらの薬が長期間投与されている症例には、ASTがカンファレンスを行い、抗菌薬使用の助言を行っています。



②手術でも適正使用

効率的かつ適切に術後感染予防抗菌薬を使用することで、手術部位感染の減少、耐性菌の発現予防を目指しています。適切なタイミングで、適切な抗菌薬を投与し、余分な抗菌薬を使用しないようにしています。適切な投与タイミングとは、「投与開始は切開の1時間前以内」です。適切な抗菌薬とは、手術部位の常在細菌叢に抗菌活性を有する抗菌薬です。多くの手術では皮膚常在菌のみをター

ゲットとする狭域な抗菌薬が使用され、一部の手術で臓器特有の常在菌をターゲットとする、やや広域な抗菌薬が使用されます。余分な抗菌薬とは、術後に使用される静注抗菌薬や内服抗菌薬です。昔は、術後に抗菌薬を内服させていましたが、最近では行われていません。「これらをかき遵守してもらうか」は重要なポイントです。現在、岡崎市民病院で手術を受ける多くの患者さんにクリニカルパスが適応されています。「適切な抗菌薬が投与され、余分な抗菌薬が投与されないようなクリニカルパスを作ってしまうが良い」ということで、クリニカルパス委員会と協力して、クリニカルパスに従えば、適正に抗菌薬が使用されるようにしました。また、上記3項目の遵守を医療情報室と協力しモニタリングしています。遵守率の低下があれば、改善に取り組んでいます。

岡崎市民病院は、抗菌薬の適正使用に取り組んでおります。当院に入院されたり、手術を受けられたりする患者さんは、先生方よりご紹介していただき、病状が回復しましたら、先生方のところに紹介させていただいております。そうした点で、抗菌薬適正使用につきましても、地域で取り組むことができると考えております。今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



感染対策室の出張講演会

感染対策室では、毎年職員向けの講演会を開催しています。先生方の御施設で、「感染対策の勉強をしたいけど、自分たちで準備するのは大変!だから市民病院に頼みたい」というご要望がございましたら、ご連絡下さい。



問い合わせ先 **地域医療連携室**
 ●平日/8:30~17:00 ●土曜日/9:00~13:00
 TEL **0564-66-7262**
 FAX **0564-25-6720**

DIALOG BOX



感染対策講演会を開催し
教育指導を行っています

感染管理認定看護師

すぎうら せいじ
杉浦 聖二

感染管理は、医療環境で感染から患者さん、訪問者、医療関係者を守ることにあります。

日常的に現場のラウンドを行い現状の把握をし、日頃の感染対策の実施状況確認をします。問題点があれば現場へのフィードバックと改善のための介入を行います。

また、感染症の発生時やアウトブレイク発生時にも迅速に現場に駆けつけ、予防対策につとめます。

日頃から、予防管理に関する相談を受け、助言を行い、定期的に職員に向けての感染対策講演会を開催し、感染予防の推進を意図した教育指導を行っています。

感染予防対策は、院内にとどまらず、地域の方々のご協力も必要となりますので、よろしくお願いいたします。